

新潟県 自主防災組織 優良活動事例集



新潟県

新潟県防災局防災企画課

○活動概要

○活動内容

複数の自主防災会の防災関係者、地域住民、避難施設管理者及び市職員の3者による避難所運営委員会を形成。避難所開設にかかるミッションカードを作成するだけでなく、それを活用して、夜間の災害を想定した避難所運営訓練を実施する等、地域主体の避難所運営体制を整備。

○夜間の避難所運営訓練

夕方から夜にかけて訓練を行い、参加者にはあえて事前に出欠確認や持ち物・服装の指示をしないこととした。これにより、実際の災害時に近い状況を作り出し、参加者自身が必要な物を考えるきっかけにつなげることが狙い。



○ここがポイント！！

写真提供：小針中学校避難所運営自主防災会



自主防災会が主体となって避難所運営を行うだけでなく、よりリアルな状況で避難所運営訓練を実施するアイデアは非常に有効！！どんなアイテムが役立つかという発見や、個々の生活スタイルに合わせた持ち物の選定ができるにもつながる！！訓練後に参加者からのフィードバックを集めて、どんな物を持参すべきか、または実際にどんな困難があったかを共有するなど、毎年、地域防災力をアップデートしていく姿勢が素晴らしい！！

○活動概要

○活動内容

避難所の的確な運営を目的とし、複数の自主防災会の防災関係者、避難施設管理者及び市職員の3者による避難所運営委員会を形成。定期的に避難所運営学習会や避難所運営訓練を実施。避難所に関する基礎知識をリーフレットにして全戸に配付している。

○前川地区避難所運営委員会

以下の自主防災組織を中心に結成。

- ・青山町自主防災組織
- ・前島町自主防災組織
- ・青島町自主防災組織
- ・上前島町自主防災組織

※4町内が連合する「前川地区協議会」の下部組織として財政面の支援を受けている。

○活動内容

毎年1回、避難所運営訓練を行い、住民に避難所について理解を深めてもらっている。併せて避難所運営の要点並びに地震や洪水への対応をまとめたリーフレットを全戸配付するなどして住民の防災に関する啓発を行っている。

○今年度の活動スケジュール

- R06.1月 連合4町内の町内会長あてに事業報告と今年度計画説明
- R06.3月、5月、7月、8月、10月 サポートメンバー会議開催
- R06.9月 避難所運営訓練実施（本部設営訓練）

○ここがポイント！！



4町内会が避難所運営委員会として1つになり防災訓練を実施することで、災害時、実際に避難してくる人たちと、平時から、つながりを持つことができる！！小学校と連携することで、子どもたち等、若年層の防災意識向上にも取り組んでいる！



↑避難所運営訓練の様子。訓練時には、長岡市における地震リスクや家庭での備え、家庭内備蓄等を併せて啓発している。



←避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験する避難所運営ゲーム（HUG）を実施。
長岡市立前川小学校と連携し、防災教育学習として小学生に参加を促している。

写真提供：前川地区避難所運営委員会

○活動概要

○活動内容

地域の安全と防災意識の向上を目指し、令和5年9月、町内会の災害リスクの理解と防災意識の向上を図るため、「防災マップ大雨洪水編」を作成、全戸に配布し訓練等に活用している。

○連携している機関・団体

自主防災組織として加入している、新発田市防災協会の活動促進助成金の補助金を活用し作成

○防災マップ作成により期待できる効果

- ・ 町内の災害リスクや防災情報を把握できる。
- ・ 住民が災害に備えて必要な行動や準備ができる。
- ・ 住民が災害時に適切な避難や助け合いができる。
- ・ 住民の防災意識や参加意欲を高める

○今年度の活動スケジュール

- R06.07月 町内会事業として「安全安心講座」を実施
防災マップの見方や活用法などを参加者に周知
- R06.10月 防災訓練実施（避難訓練、普通救命講習等）

○ここがポイント！！



町内会（自主防災会）が主体となって、地域の特性等を反映したハザードマップを作成・配布して防災意識の高揚に取り組むとともに、マップを活用した訓練の実施により地域が一体となって防災力の向上を図っている！



○活動概要

○活動内容

小岩内区自主防災組織（毎年8月末に市が実施する防災訓練にあわせ、防災訓練を実施し、終了後に「収穫祭」を開催し住民の親睦を深める機会としている。令和4年8月3日からの大雨の際にも、住民が協力し適切な避難行動を執ったことで死者・行方不明者を出すことがなかった）

○令和4年8月新潟県北部豪雨

令和4年8月3日からの線状降水帯を伴う大雨の影響で、小岩内地区では、大規模な土石流が発生。しかし、当時の区長や防災士、消防団等の呼びかけにより、区民106名（うち53名は65歳以上）のうち1人も犠牲者を出すことはなかった。

○被災経験を踏まえた集落の取組

小岩内地区で区避難計画を作成し、要支援者の避難訓練を実施。担架や車椅子を活用して最寄りの避難所まで避難。

安否確認も含めて避難者受付も実施。

防災訓練終了後は、区役員等で、区避難計画の見直し、改善点を検討している。



当時の小岩内地区の様子



防災訓練後には、区の収穫祭を開催し、地域の交流を促進。

区の住民全員が集まり、老若男女誰でも集まれる場として、いつも大盛況！！



写真提供：小岩内地区自主防災組織

○今後の取組

- ・避難所にいる避難者との連絡体制の構築
- ・区防災計画の見直し

○ここがポイント！！



実際の災害で経験したからこそその地域の絆を活かした良い取組！
地域住民自らが地区の防災計画を見直すことは、単なる準備ではなく、
地域住民が災害に備えて自立し、協力し合うため重要な取組！！

○活動概要

○活動内容

能登半島地震における津波からの避難の検証に当たり、自主防災組織内で、能登半島地震での実際の避難傾向などの住民アンケートを実施し、回答結果を分析。分析結果を基に、車での避難等を想定した住民避難訓練を実施し、今後の備えのための検討を進めている。

○車による避難を想定した住民避難訓練

能登半島地震では、避難した住民のうち約70%が車での避難であったため、車での避難を想定した住民避難訓練を実施。



○住民の反応

能登半島地震の際には、避難する際に、若年層が高齢者を支援していた。今回の地震対応、アンケートや避難訓練を通じて、地域の協力体制がより一層強化されたという声が多かった。

○今後の課題

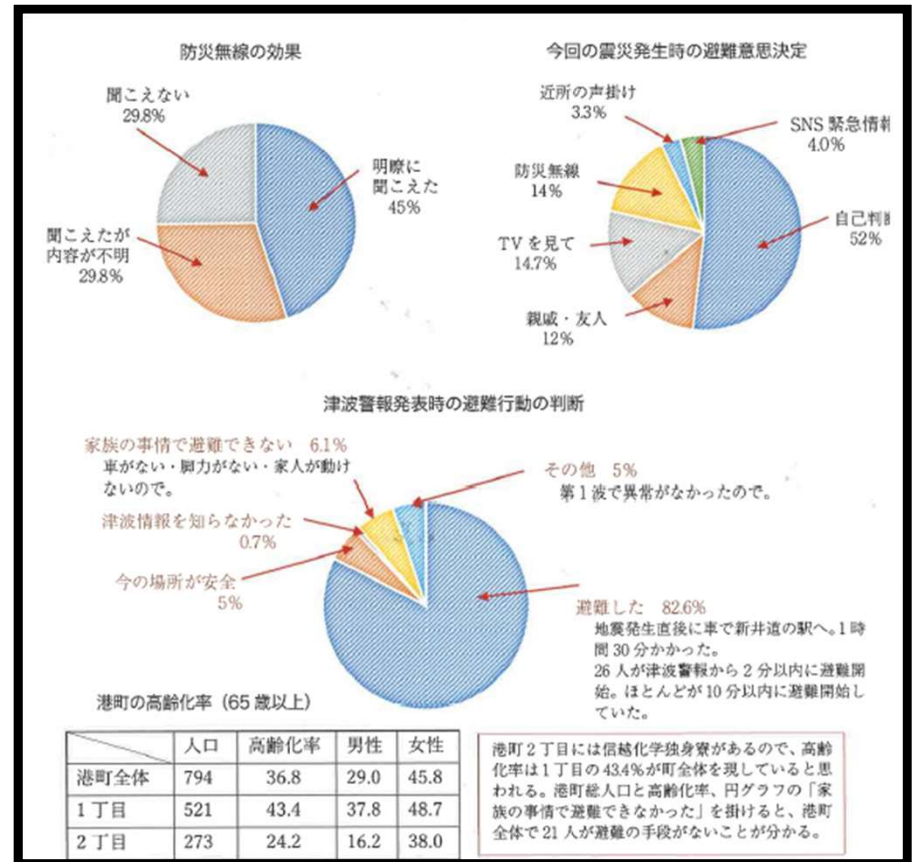
- ・多くの住民が車での避難をすることによる渋滞の発生
- ・積雪時の迅速な避難体制の整備

○ここがポイント！！



地域住民が主体となり、アンケートを実施して収集したデータを基に、実践的な訓練を行ったのはスゴイ！アンケートや訓練を通じて、地域の協力体制が強化される良い取り組み！

○住民アンケート結果



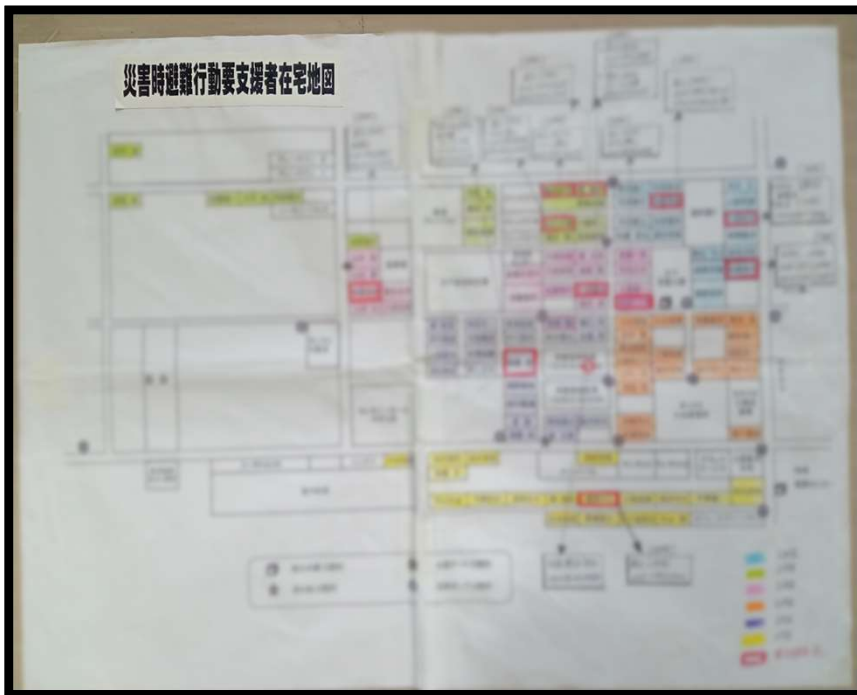
○活動概要

○活動内容

自治会内の要支援者とその家族の連絡先を整理し、その内容を基に自治会要支援者マップの作成。災害時には、要支援者マップを活用し、自治会の班ごとに要支援者を支援する体制を整備。

○自治会要支援者マップ作成における効果

- ・自治会内の6つの班の班長が要支援者マップを渡し、各班での避難誘導が、より迅速に行えるよう体制整備。
- ・マップを作成することで、支援が必要な人の居場所が一目で分かり、災害時だけでなく、日頃からの声かけや見守りが促進にもつながる。



※個人情報が含まれるため一部写真を加工しています。

提供：大下自治会自主防災会

○要支援者マップの特徴

- ・班ごとに色分けし、さらに要支援者は**赤枠**で囲うことで、視覚的に分かり易い作り。
- ・要支援者本人、その家族の連絡先を余白に記載。迅速な連絡体制に繋げている。

○その他の活動内容

- ・要支援者の避難をよりスムーズに行えるようにするため、必要な物品を自治会役員を中心に相談。
- ・市に自治会の防災計画を提出。
市の補助金を活用してリヤカーを購入。



○ここがポイント！！



要支援者の迅速な避難のために、自治会独自に工夫している良い取組！日頃からの声かけや、地域交流の活性化にもつながるし、マップを作成する過程で、防災への新たな気づきも得られるかも！

○活動概要

○活動内容

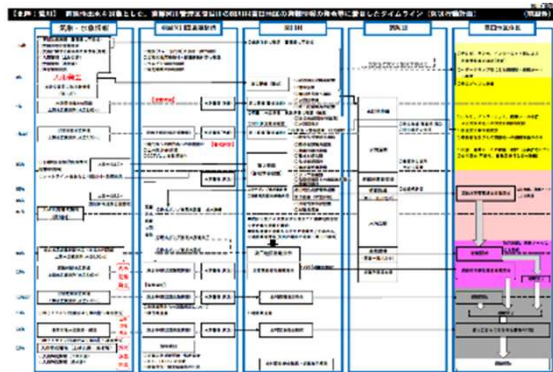
令和4年8月新潟県北部豪雨の被災経験から、集落の防災計画を見直し、浸水害に備えた集落独自のコミュニティタイムラインを村と連携して作成。また、集落の取組について、他県の自主防災組織からの視察研修が行われた。

○令和4年8月新潟県北部豪雨

令和4年8月3日からの線状降水帯を伴う大雨の影響で、高田集落では、集落内が冠水。消防団と自主防災会が連携して迅速な避難行動をしたことで、人的被害を防いだ。

○被災経験を踏まえた集落の取組

被災経験を基に、村と連携し、地域防災力を強化。



コミュニティタイムラインを村と連携して策定し、集落内の避難判断基準を定める。

(2)集落自主防災会の計画の見直し

- ・計画したら訓練を行う。訓練したら検証し見直しを実施する
- ・災害情報の入手手段を集落内に周知が必要
- ・役場と日常からコミュニケーションが必要
- ・集落内での避難判断基準を決める
- ・避難所への避難を最優先する
- ・要支援者の個別避難計画作成を役場に要望
- ・自主防災計画から地区防災計画へステップアップ
- ・コミュニティ川北(各集落)との協力体制の構築

被災経験を踏まえ、集落防災計画を見直し

当時の高田集落の様子



○他県の自主防災組織からの視察

山形県西置賜郡白鷹町菖蒲区の自主防災組織が視察され、高田集落の活動内容や被災状況等を現地視察。検討会も開催し、連携強化。



資料提供：高田集落自主防災会、関川村総務課



実際の被災経験が風化する前に、被災経験を踏まえた事項を防災計画に反映させ見直し、次の災害に備える良い取組！また、集落の取組について、日頃から他地域の自主防災組織と連携をしておくことでノウハウの共有や、防災の重要性に対する意識をより高めている！